

あつぎ

農委だより

共に育む、地域農業の未来へ

2026年
1月1日
第97号
編集・発行
厚木市農業委員会

賀正



農業委員・農地利用最適化推進委員 新体制でスタート
(関連記事2・3ページ「委員紹介」)



厚木市農業委員会
会長 山川 宏司

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から農業委員会活動に対する温かいご理解とご協力に、心から感謝申し上げます。

昨年10月には任期満了により、農業委員・農地利用最適化推進委員の改選が行われ、新体制での活動がスタートいたしました。委員一同、本市の農業振興のために尽力してまいる所存です。

さて、農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化や後継者・担い手不足に加え、米の生産・供給体制の問題や暑さに伴う熱中症への対策など、依然として厳しい状況が続いております。

しかしながら、農業は、私たちの生活に欠かすことのできない「食」を支える産業であり、安心・安全で新鮮な食料を供給するという重要な役割を担っております。

農業の基盤である農地は、農地法においても「地域の貴重な資源」と位置付けられています。本市の農業のさらなる発展のため、農業者の声や地域課題を丁寧にくみ取り、後継者の育成や農地利用最適化など、施策に反映してまいります。

結びになりますが、地域農業にとって明るい歩みとなりますこと、また、皆さまの1年が健やかでありますように、心からお祈り申し上げます、年頭のごあいさついたします。

はじめまして、私たちが新しい農業委員・農地利用最適化推進委員です！

《任期》
令和7年10月17日～令和10年10月16日

農地や農業に関する相談など、お気軽にお声掛けください。

農業委員（役職順ほか音順）
農地利用最適化推進委員（地区順）

氏名 担当地区（農地利用最適化推進委員のみ）

住所（大字）
農業との関わり
趣味
顔写真
意気込み
趣味の写真

山川 宏司（会長）

飯山
酪農
お城巡り、写経
日本100名城
都市農業の利を生かし、魅力あふれる農業の振興に努めます。

山口 泉（会長職務代理者）

温水
農業委員会の運営に関して中立的立場で助言
釣り
本市の農業の発展と魅力の発信に努めます。

常盤 悟（農地担当理事）

山際
水稲、露地野菜を栽培
ドライブ、観光
農地利用の最適化推進、農業による地域の活性化に努めます。

市川 秀夫（農政担当理事）

下川入
水稲、露地野菜を栽培
書道
農地の保全と遊休農地の解消に努めます。

小池 よし子（農地副担当理事）

妻田西3丁目
青パパイヤ、ニンニク、スイカを栽培
ボディパーカッション
遊休農地の解消に寄与し、食と農業の魅力発信に努めます。

高澤 友紀子（農政副担当理事）

上荻野
タマネギ、ジャガイモを栽培
布小物づくり
食の自給率向上につながるよう、農地の有効活用の推進に努めます。

伊藤 洋文

温水
露地野菜を栽培
農業
農地等の利用最適化の推進に努めます。

大塚 孝雄 ※JAあつぎ選出

愛甲東1丁目
JAあつぎで事業全般統括と管理業務を担う
テーマパークに行くこと
農業の多面的機能の発揮と持続可能な農業の発展に努めます。

大貫 昭司

戸田
水稲、露地野菜を栽培
菊の栽培
農地を有効に活用し、自給率の向上に努めます。

神崎 吉男 ※JAあつぎ生産組合長会選出

温水西2丁目
ダイコン、ブロッコリー、ネギなどを栽培
旅行
遊休農地の解消と都市農業の発展に努めます。

庄司 隆行 ※土地改良区選出

愛甲4丁目
水稲、ナシ、カキを栽培
釣り
農地の保全、遊休農地の削減に努めます。

高瀬 正美

上荻野
キャベツ、ブロッコリーなどを栽培
読書、自作PC
農地の保全と利用の適正化を図り、農地の有効な活用推進に努めます。

三橋 能弘

小野
露地野菜、ブドウ、ナシなどを栽培
囲碁、尺八
遊休農地の解消と農地の有効活用を努めます。

梅澤 公義 依知

山際
露地野菜を栽培
旅行
遊休農地の発生防止と後継者の育成に努めます。

小林 倫久 依知

金田
水稲、スイカ、サトイモを栽培
ツーリング
農地利用の最適化を推進し、遊休農地の減少に努めます。

高井 利之 睦合

三田
水稲、露地野菜を栽培
テニス
農業の多面的機能の発揮と持続可能な農業の発展に努めます。

石井 照治 睦合

妻田西1丁目
露地野菜を栽培
釣り、ゴルフ
農地を継続利用できる環境を整備し、遊休農地の発生抑制に努めます。

三平 定邦 荻野

上荻野
水稲、ダイコン、カキ、梅などを栽培
花壇花づくり
中山間地等にあり、耕作が困難な遊休農地の解消に向けた活動に努めます。

小野 晴巳 荻野

中荻野
酪農
旅行
新規就農者の参入を促進することにより、遊休農地の解消に努めます。

馬場 保雄 小鮎

飯山
露地野菜を栽培
ゴルフ
遊休農地を減らすことができるよう、活動に努めます。

山本 金五 小鮎

宮の里3丁目
ホウレンソウ、白菜、タマネギなどを栽培
歴史探訪
地域の方々や相談・連携を図り、取り組んでまいります。

加藤 克美 南毛利

長谷
水稲、タマネギ、カキなどを栽培
ゴルフ、ツーリング
土地所有者や耕作者と積極的に関わり、遊休農地の抑制に努めます。

春山 清泰 南毛利

温水
バクチャー、チンゲンサイを栽培
詩人の研究
農地を愛する活動に努めます。

加藤 勇 玉川

七沢
レタスなどを栽培
ハイキング、俳句
収穫の喜びや経験で得た知識を生かし、活動します。

高橋 浩幸 玉川

小野
水稲、露地野菜、カキなどを栽培
農地の除草
農地利用の最適化を図るため、農地などで人との関わりに努めます。

山口 治久 相川・厚木

岡田5丁目
水稲、露地野菜を栽培
釣り
農地の有効利用と遊休農地の削減に努めます。

藍田 金久 相川・厚木

酒井
露地野菜を栽培
旅行
遊休農地、荒廃農地の解消に努めます。

農地利用最適化に向けた意見・要望書を市長に提出

昨年9月11日、農業生産力の増大、農地の保全のため、農地利用最適化の推進に関する意見・施策・予算要望書（24項目）を山口貴裕市長に提出しました。

令和8年度 主な意見・要望

- ◎若者や女性を含む幅広い意見を反映した地域計画の具現化と実効性を確保
- ◎新規就農者の経営開始資金について、給付期間の延長など、支援の拡充を国に働きかけること
- ◎農地流動化奨励金の増額および中途解約時における返還免除制度の検討
- ◎水田大区画化推進に向けた市独自の畦畔^{けいはん}除去補助制度創設の検討
- ◎特定外来生物の共同防除体制の確立と地域ごとの防除強化の検討
- ◎暑い時期の農作業における熱中症対策への施策および補助の検討
- ◎開発後の周辺農地への影響を是正するため、指導体制強化の検討
- ◎米の安定供給および地域農業保全のため、農家の地位・所得向上を目指した有効かつ実効性のある支援の強化の検討



山口市長へ意見・要望書を提出



山口市長との意見交換



農業塾開講のご案内

J Aあつぎ管内で農業に関心のある方を対象に研修を開講します。

＜開講内容＞

講座とは場（温水地区）での栽培実習を通し、農業・農作物に関する基礎知識を学びます。また、基礎コースを修了し、J Aあつぎが認めた方は、農家研修で実践的な技術・知識を学び新規就農を目指すことができます。

コース名	基礎コース
開講回数（予定）	講座：4回、実習：12回 全16回
開講期間	令和8年3月上旬から8月下旬まで
募集人数	15名程度
受講料	組合員：22,000円、非組合員：24,200円

＜申込方法＞

J Aあつぎ本所2階指導販売部窓口にて「受講申込書」に必要な事項を記入し提出。

※本所のみ（8時30分から16時30分まで）の受付となります。

※申込書は当日記入、またはJ Aあつぎホームページからダウンロードし事前記入、持参も可。

※申し込みが多数の場合は、受講申込書の志望動機などにより選考し、受講が認められた方のみ通知します。

＜申込受付期間＞

令和8年2月2日（月）から同月6日（金）まで

＜受講資格＞

- ① J Aあつぎ管内（厚木市・清川村）在住の方
- ② ①に該当しない方で、認定新規就農者資格を取得し、J Aあつぎ管内で就農しようとする方

問 J Aあつぎ指導販売部 地域農業対策課 ☎046-221-2273



農地パトロールのお知らせ

農業委員会では、農地の利用状況を把握し、遊休農地などの発生防止・解消を目的として、年4回、「農地パトロール」を実施しています。

パトロールでは、前年度に把握した遊休農地が解消されているかなどを確認しながら、各地区の農地利用最適化推進委員が中心となって巡回を行っています。

パトロールで遊休農地と判断された農地の所有者には、年1回、調査票を送付し、今後の利用意向を確認します。

農地の所有者・耕作者の方は適正な管理をお願いします。



適正に管理された農地

安全で安心な農業のために

～農薬や除草剤散布は周辺の環境に配慮を～

農薬や除草剤は使用方法などを誤ると、散布者だけでなく、周辺環境にも影響を及ぼす可能性があります。

作業をする際には、風向き・時間帯・ノズルの向きなどに十分注意し、薬剤の飛散や流出を防止する対策を徹底し、周辺への配慮をお願いします。



被害を受けたと思われる作物



農林水産省リーフレット

農林水産省ホームページ
二次元コード

編集手記

近年、農業従事者の減少や都市化の進展により、農家数と耕作を行う農地面積が減少傾向にあります。

加えて、後継者不足や農地の荒廃、農業用機械などの高騰、異常気象など、農業を取り巻く環境は日々大きく変化しています。

こうした中でも、地域の農地を守り、次の世代へと引き継ぐために、たゆまぬ努力が続いている多くの農業者の姿があります。近年では、若い世代の新たな就農、都市住民による農業体験や交流活動の機会を増やすことで、農業を通じた新しいつながりも広がりをみせています。

農地は食料を生み出すだけ

でなく、人と人、地域と地域を結び、街の景観や文化を支える大切な基盤です。

農業委員会では、こうした地域の力を支えながら、農地の有効活用と保全の両立を進めるとともに、持続可能な都市農業の振興を目指し、担い手の支援や後継者育成に地域の皆さまと協働しています。

これからも、市民の皆さまのご理解とご協力を得ながら、厚木の豊かな農業が未来へと息づき、次代を担う人々に希望と誇りを伝えられるよう、着実に歩みを重ねてまいります。
(農業委員T)



月700円（送料込）
毎週金曜日発行
お申し込みは農業委員会事務局へ

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

国が支える 安心が大きくなる
担い手積立年金

詳しくは… 農業者年金基金 検索

お手続きは、JAあつぎ本所、各支所または農業委員会事務局へ

<https://www.nounen.go.jp>